



# AICJ Newsletter

2019  
May

AICJ中学・高等学校 〒731-0138 広島市安佐南区祇園3丁目1-15 TEL:082-832-5037

本校は、2009年に西日本初の国際バカロレア（IB）DP認定を受けた一条校で、生徒はグローバル社会のリーダーを目指し、学内外で様々な活動に取り組みます。

## 国際教育ネットワーキングフォーラムIN韓国への参加



朝鮮半島の非武装地帯を見学



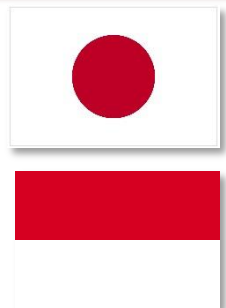
AICJの生徒5名を含む  
日本からの参加者

このフォーラムへの参加も今回で6回目となりました。今年1月に行われ、本校から5名の生徒が、4泊5日の日程で韓国を訪れました。アジア5つの国と地域から高1の生徒が集まり各国の文化の理解を深めました。どの生徒も母国語は英語ではありませんが、交流は全て英語で行われ、他国の同世代とコミュニケーションできる喜びをかみしめたようです。



左の写真は、日本の豊について、プレゼンテーションをする現高2（当時高1）の小崎あみるさんです。

## AICJ-インドネシア LABSCHOOL Exchange Program



4月初旬、インドネシアのLABSCHOOLの生徒35名が来校して文化交流を行いました。インドネシアでもトップクラスの学校で学ぶ生徒さんは英語も堪能で、本校の生徒と出会うと、すぐさま話に花が咲きました。インドネシアの伝統的なダンスや儀式、ムスリム特有のお祈りを披露してもらいましたが、初めて目にするだけでした。本校からは書道や茶道、アニメなどのサブカルチャー、伝統的な遊び（はないちもんめ）など日本文化を紹介し、最後はAICJ饅頭でもてなしました。とても有意義な時間を過ごすことができた生徒たちは、SNS等で連絡先を交換しながら互いに日本とインドネシアに友達ができたと喜んでいました。今後ともこういった活動を頻繁に行い、異文化理解やグローバルな視点を養っていく機会を大切にしていきたいと思えます。



インドネシアの扇子



書道の実演



民族衣装ヒジャブ



ポチョポチョ  
と呼ばれる踊り



# 高校生対象の英語で取り組む国際競技 The Global Enterprise Challenge

## 国内予選優勝！5月の世界大会に進出

### ～藻類で魚を養殖する事業を提案～

3月24日に行われた国内予選で、見事本校の高3(8名)のチームが優勝しました。大会HPによると、挑戦する課題は、環境、エネルギー、産業、災害対策、教育など世界が共有する問題に関わるもので、競技では、その課題を科学技術を活用し、事業として持続可能な形でどのように解決するかを問われます。今回の課題は、「水産物の乱獲を止め、生態系を守る仕組み」でした。参加者は3人以上8人以内でチームを結成し、その解決策を12時間の制限時間内に英語で2ページの事業プランと3分の動画プレゼンテーションにまとめて提出し、最終的に創造性・革新性、実現性、市場性、コミュニケーション能力などの点で総合的に評価・審査されます。今大会は開成高(東京)、麻布高(東京)など全国から66校68チームが参加しており、中国地方からの参加は広島2校4チーム、岡山1校1チーム、鳥取1校1チームでした。なお、2位の広尾学園高(東京)、3位の同志社国際高(京都)のチームを加えた計3チームが5月12日の世界大会に参加します。

#### 《参加者した生徒のコメント》

##### 真田 翔太くん

この大会は知識のみならず、高度なパソコン技術やコミュニケーション能力も非常に重要で、難しかったです。ただ、楽しみながら仲間と頑張れるのは価値ある経験だと思います。この思いを胸に世界大会に向けて精進していきます。

##### 佐々木 咲乃さん

12時間という短い時間の中、常に良い雰囲気でやり抜けたのはチームメンバーのスキルとユーモアのおかげです。彼らのおかげで12時間でビジネスプランを考えるという経験は新鮮でかつ楽しいものになりました。



写真は優勝チームの8名

##### 浅沼 駿哉くん

いざ目標達成のためのビジネスアイデアを考えてみるとなると困難を極めました。メンバー8人の持ち味を結集した結果として、国内予選1位になれたことを誇らしく思います。世界大会では日本のみならず、世界の強豪チームと競うことができるということで更なる研鑽を積んでいきたいと思っています。

4月17日付けの中国新聞朝刊でも取り上げられました。



The Global  
Enterprise Challenge

大会HPはこちら→



#### 【GECとは・・・】

高校生を対象とした12時間の国際競技で、青少年のイノベーションへの興味を喚起するために、16歳から18歳の高校生(高専生含む)を対象に英国スコットランドの行政機関であるCareers Scotlandが試験的に始めて以来、参加国が連携して継続してきた国際競技で、NASA(米航空宇宙局)やWIPO(世界知的所有権機関)も支援してきた。日本は2004年から国内予選を行い、世界大会に毎年代表チームを送っている。(大会HPより)